国東の神楽面

― 有寺(うでら)社の神楽面（その２）―

衛　藤　賢　史

はじめに

「博物館研究報告№６」で紹介した，有寺社の神楽面は12面のうちの６面であった。ひきつづき，本報告で残りの６面の紹介をしていくことにする。

調査方法は，〝鬼会面〟と同様の測定方法で行なったわけであるが，先に紹介した６面と同じように，面の各部の作り，特徴などを，出来る限り詳しく紹介していくことにする。

神楽面（Ⅶ）

この面は，最大面長24.5cm，最大面幅20cm，面高―額部11cm・鼻部14.5cm・顎部11cm，彫厚１～1.5cm，重量700ｇの大きさを有する面である。

面裏の右側に「夷村・板井國光作」の銘をもつ。面種についての銘はないが，後述する同系の３個の鬼面から考えて「一番羽鬼」と推測する。

この面を部分的に観察してみると，まず額部であるが，鼻部上方を中心にしてＶ字状の浅い彫りこみをしており，その上部に頭髪を表現しているような黒墨の彩色をもつ。

眉部は，太く一直線にはねあげた彫りをしており，黒墨で彩色している。

眼部は，上部につりあがった形をしており，銅板を張り，その銅板を鼻部に近い方で釘をうってとめている。金色の彩色をしており，丸形の刳り貫きを施している。

鼻部は，あまり突起した彫りでなく，小鼻が横に張り，側面からみると，丸形である。鼻の先端部は，塗りがはげ落ち，木地が露出している。

口部は，阿形であり，舟型の開口をしている。歯は，上部８本，下部12本彫っており，金色に彩色し，いわゆる歯を剝く形である。この口部は，刳り貫かれているが，上部を刳り貫いて正面からそれがみえないようにし，口中を赤で彩色している。

顎部は，方形に張った彫りをしており，側面からみると，下顎部を大きく突き出しており，すけ口の形である。

耳部は，彫りも浅く形式的である。なお，上部に穴をあけ，ひもを通されるようにしている。

角部は，左右ともに11cmの長さであり，先端をとがらせない丸い感じの作りで，金色の彩色をしている。左右とも塗りがかなりはげており，特に正面からみて右側の角の落剝はひどい。

全体的にみると，長方形の面であり，彩色が肌色に近い白色であるため，鬼面の形相よりも幽鬼を思わせる不気味な表情となっている。

神楽面（Ⅷ）

この面は，最大面長22.5cm，最大面幅18cm，面高―額部11.5cm・鼻部14cm・顎部11cm，彫厚

1～1.5cm，重量600ｇの大きさを有する面である。

面裏上部中央に「弐，貳番羽鬼」，右側に「夷村，板井國光作」の銘をもつ。

この面を部分的に観察してみると，まず額部であるが，比較的せまく，側面からみると，眉部を厚く彫っているので，丸く盛りあがったコブのような形になっている。

眉部は，眉間を切らず，ゆるいU字状に一つづきに彫っており，その下に，更にもう一本，一つづきの彫りこみがある。

眼部は，ラッキョウ形であり大きい。銅板を張り，両眼とも両端を釘でとめている。金色の形をしており，丸形の刳り貫きを施している。

鼻部は，小鼻を大きく横に張った形であり，側面からみると，鼻筋からすぐに盛りあがった形で，天狗状の鼻を思わせる丸形の彫りである。

口部は，阿形であり，舌を突き出す形に彫っている。歯は，上部６本，下部10本彫っており，金色の彩色をしている。

顎部は，正面からみると少し丸味があるが，側面からみると，下顎部が，鼻部の半分近くまで突き出しており，異様なすけ口の形である。落剝は，この口部周辺が一番はげしい。

耳部は，彫りも浅く形式的であり，塗りが落剝している。なお上部に穴をあけ，ひもを通すようにしている。

角部は，左右ともに10cmの長さであるが，左右相称では，正面からみて右の角は，少し曲がっている。太さも右の方が太い。両角とも金色の彩色をしており，ともに差し込みである。

全体的にみると，長方形の面であり，眼部，鼻部，口部の造作を特に大きく彫っている。全体の彩色は，赤茶色である。

神楽面（Ⅸ）

この面は，最大面長22.5cm，最大面幅18.5cm，面高一額部10cm・鼻部13cm・顎部12cm，彫厚0.5～１cm，重量600ｇの大きさを有する面である。

面裏の中央上部に「三番羽鬼」，右側に「夷邑，法橋國光作」の銘をもつ。

この面を部分的に観察してみると，まず額部であるが，比較的せまく，側面からみると，丸い傾斜をもった作りにしている。上部両端は塗りが落剝しており木地が露出している。眉部は，角部から鼻部にかけて丸く深い輪郭線をもった彫りこみをしており，眉の形は太く短かい。

眼部は，大きな作りであり，両眼尻は，下方向にむいて彫りこんでいる。銅板を張り，両眼とも両端を釘でとめている。金色の彩色をしており，丸形の大きな刳り貫きを中央部に施している。

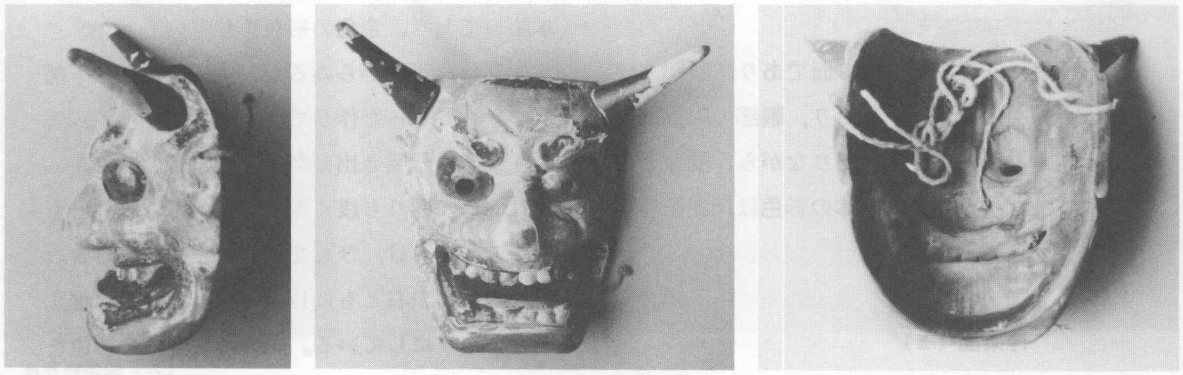
鼻部は，鼻筋のところにシワ状の３本の彫りこみをしており，小鼻を大きく横に張った形である。側面からみると，あまり突起した形でなく丸形に彫っている。

口部は，阿形であり，口の形に刳り貫いている。歯は上部６本，下部10本彫っており，金色の彩色をしている。

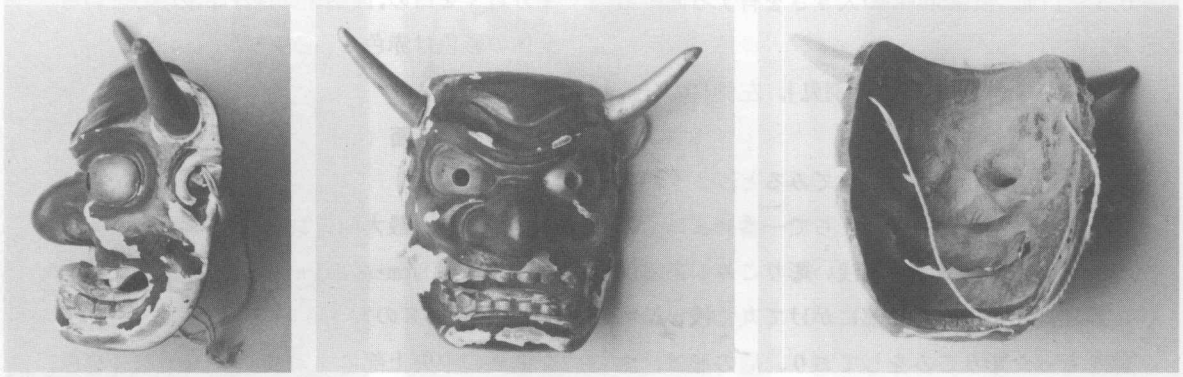
顎部は，正面からみると，下顎部を細くした作りにしており，側面からみると，下顎部を少し突き出した形に彫っている。この下顎部周辺の落剝ははげしい。

耳部は，彫りも浅く形式的である。両耳とも落剝が激しい。なお，上部に穴をあけ，ひもを通すようにしている。

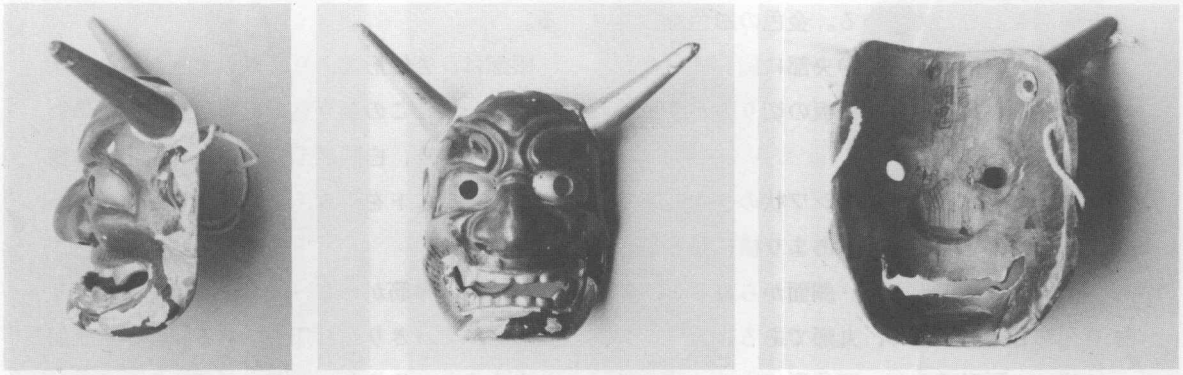
角部は，左右ともに12cmの長さであり，太い



有寺神楽面［VII］



有寺神楽面［VIII］



有寺神楽面［IX］

角である。両角とも金色の彩色をしており，ともに差しこみである。

全体的にみると，丸形の面であり，眼部と口部の造作を大きく作っており，眼部の眼尻が下がっているので，鬼面がありながら，愛敬のある表情になっている。全体の彩色は，赤茶色である。

神楽面（X）

この面は，最大面長22cm，最大面幅15cm，面高―額部10cm・鼻部13cm・顎部11・5cm，彫厚0.5～1cm，重量500gの大きさを有する面である。

面裏の中央上部に「四番羽鬼」，左側に「夷邑，法橋國光作」の銘をもつ。

この面を部分的に観察してみると，まず額部であるが，四個の鬼面のうちで一番せまい。また，鼻部上方にV字状の浅い彫りこみがある。

眉部は，角部から鼻部にかけて丸く浅い輪郭線をもった彫りこみをしており，眉の形は，太いへの字状である。

眼部は，大きな作りであり，両眼尻は，下方向にむいて彫りこんでいる。銅板を張り，両眼とも両端を釘でとめている。金色の彩色をしており，丸形の刳り貫きを中央部に施している。なお正面からみて左側の銅板の切り方がうまくない。

鼻部は，鼻筋のところにシワ状の3本の彫りこみをしている。小鼻は，あまり横に張っておらず，鼻の作りは小さい。側面からみると，あまり突起した形でなく，丸形である。

口部は，阿形であり，四角形に大きく開いている。口部の上方3分の1を刳り貫いており，刳り貫きを施していない下部を赤色で彩色し口腔内に表現している。歯は，上部6本，下部10本彫っており，金色の彩色をしている。

顎部は，正面からみると，両横は菱形で下部は方形の変わった作りである。側面からみると，下顎部を少し突き出した形に彫っている。

耳部は，彫りも浅く形式的である。両耳とも上部に穴をあけ，ひもを通すようにしている。

角部は，左右ともに12cmの長さであり，根元を太い作りにしている。両角とも金色の彩色をしており，ともに差しこみである。

全体的にみると，少し楕円形の面であり，眼部と口部の作りが大きい。特に口部は，全体の半分近くを占め，面相を異様な印象にしている。全体の彩色は赤色である。

神楽面（XI）

この面は，最大面長21cm，最大面幅14.5cm，面高―額部8cm・鼻部10cm・顎部7.5cm，彫厚0.5cm，重量250gの大きさを有する面である。

面裏の中央上部に「素盞嗚」，左側に「夷邑，法橋國光作」の銘をもつ。

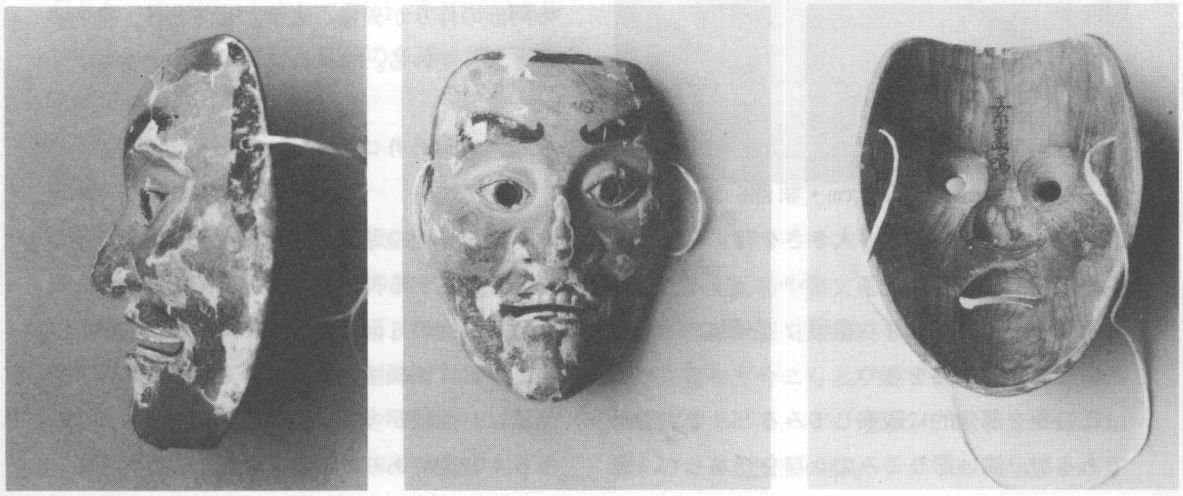
この面を部分的に観察してみると，まず眉部であるが，彫りはなく，墨で太く眉を描いている。

眼部は，杏仁形であり，丸い大きな刳り貫きをしている。この刳り貫いた周辺部は金色の彩色をしており，白眼の部分の白い彩色と，異様なコントラストを生み，神的な風貌を作っている。

鼻部は，鼻筋がとおっており，小鼻もあまり張らず，すっきりした作りである。しかし側面からみると，やや丸く彫りすぎている。

口部は，阿形であり，刳り貫きを施している。歯は，白色で彩色しており，上の歯を大きくみ

有寺神楽面［X］



有寺神楽面［XI］

有寺神楽面［XII］

せている。唇は山型に彫り，側面からみると，少し突き出た作りにしている。

顎部は，卵形の丸味をおびた彫りである。

耳部は，ほんの形式的に浅く彫りこんでいるだけである。

全体的にみると，壮年の男子の風貌に似せた作りにしているが，眉部と眼部の間隔が大きく，眼窩のくぼんだ彫りが，無表情な印象をうけ，一種の神的趣きを与えている。全体の彩色は肌色である。

神楽面（Ⅻ）

この面は，最大面長20cm，最大面幅16cm，面高一額部 8 cm・鼻部 9 cm・顎部6.5cm，彫厚0.5～1 cm，重量300 g の大きさを有する面である。

面裏の中央上部に「八重垣」，左側に「夷邑，法橋國光作」の銘をもつ。

この面を部分的に観察してみると，まず額部であるが，浅い彫りこみのシワを三本もち，両側面に，それぞれ6本ずつ穴を刳り，白髪を表現する麻縄を植えている。

眉部は，眉根をよせたような彫りを，浅くしている。

眼部は，への字状の細い作りであり，丸形の刳り貫きを施している。

鼻部は，鼻筋がとがっており，小鼻はあまり張ってない。

口部は，阿形であり，唇部に赤色の彩色，歯を白色で彩色し，刳り貫きを施している。

顎部は，卵型の丸味をおびた彫りである。口部の両脇には，それぞれ3本ずつ深い彫りこみをして老人の口元のシワを表現している。なお，口部上方に10本，口部下方に3本，顎部に7本の穴を刳り，白い麻縄を植えている。

全体的にみると，老人の風貌に似せた作りにしているが，細いへの字状の眼部の作り，口部の阿形の作りが異様な表情にしており，神的表現となっている。全体の彩色は白色である。

おわりに

今回の6面の報告で，西国東郡真玉町有寺の有寺社が蔵する神楽面をすべて紹介したことになる。今回の6面は，すべて「夷村，板井國光」あるいは「法橋國光」の銘をもつ面である。神楽面は，面種が多く，国東の神楽面は大体ワンセット12面であり，形状，面相も様々である。たとえば，有寺社の神楽面は4面〝羽鬼〟とよばれる鬼面があり，その形状，面相などは，一次調査で収集した鬼会面の荒鬼面と酷似する。

なお，神楽面の調査がすすまないと詳しい検討は出来ないが，神楽面の様々な面種から，他の分野の面種と色々な比較検討を試みる企てが出来るものではないかと思われる。